

# 地域の時代に山とまちをつなぐ木の建築

岐阜県立森林文化アカデミー  
木造建築スタジオ

廣田 桂子

物の豊かさを謳歌した20世紀において、長い歴史の裏付けがあるにもかかわらず、日本の森林文化は残念ながらその時代にマッチしていないものといった扱いを受けました。特にこの50年は、健康的な森の保全のため、「整備しながら、必要な材は使わせてもらう」という、森に寄り添い共に生きることが、疎かになってしまいました。その為21世紀の今、温暖化に代表される環境問題やエネルギー問題など、私達は20世紀が生みだした多くの問題に直面しています。そこで、エコロジカルな生活スタイルとしての森林文化が、これらの打開策として、新たに注目されているのです。

そんなエコロジカルな生活の舞台として、私達日本人に一番しっかりと馴染むのが、やはり木の建築ではないでしょうか。木材は、製造エネルギーが低く、廃棄するにもそれ程負荷やエネルギーを要さず、自然界へとすんなり戻ってゆく究極のエコ素材です。そんな木材を主に使用して作り上げる木の建築は、それだけで環境にやさしい建築のカタチであり、幸運なことに、私たち日本人の居住感覚に最も適合しているスタイルでもあります。

そんな生活の“場”である木造建築に焦点を絞り、「木」のコースと木の建築を主担当に受け持っているのが、森林文化アカデミーの木造建築スタジオです。ここでの木造建築教育プログラムは、建築からもう一步踏み込み、地域の木材を使うことで、日本の林業を活性化し、流通に無駄な輸送エネルギーをかけないことで、より一層環境への付加を削減し、地域の森林を守りながら、ひいては二酸化炭素削減にも貢献することを視野に入れて構成されています。その上、設計デザインを通して、建築言語の地域性への考慮、使い手視点の住まいかたから見える地域を織り込むことにより、木の文化を現代の生活に取り込みながら、グローバルな森林文化継承を敢行できる次世代の人材育成をも目標にしています。

私達にとって、日本はまだまだ緑深い国ですが、グローバル化が進んだ現代において、この状態が我々の努力だけで保たれているとは思えません。私が高校生の頃、オーストラリアのタスマニアから来日した15歳の友人は、「タスマニアの森を破壊している会社を見に行きたい」と、日本の大手企業の訪問を希望しました。それから20年もの月日が流れましたが、木を大量に買いつけている日本企業の話は、いまだによく耳にします。同胞が行っている木材輸出のビジネスであり、一方的に日本人が破壊している

わけでは無いことを、国際社会で暮らす人々は、皆承知しています。一方、感情的には「自国の森を日本人が壊している」という印象は否めないようです。

林野庁の資料を見ますと、50年代には90%以上であった木材の自給率が、現在はその8割を輸入材に頼っています。そのために、日本国内の森では間伐がはかどらず、マネージメントが行き届いていない森や、荒れてしまった森も増えている現状があります。他国の人々にネガティブな印象を与えてまで輸入している外材の影響は、国内に良いことばかりをもたらしている訳でもなさそうです。ここで鍵になるのは、各国のそれぞれの地域性を反映させた森林のマネージメントと、製品化されるまでの‘山とまちのつながり’を、お互いに尊重し情報交換しながら、相互協力のもと進めてゆく関係プレーではないかと思えます。

そのつながりの最後の方に位置する建築では、古くから‘Parts And Whole’という考え方があります。局所的に考えても全体としてバランスが悪いことが多く、パーツと全体を繰り返し見直しながら設計・デザインを進めてゆくという考え方です。これを木造建築に当てはめて考えると、世界の森林コミュニティーの中で、日本という地元の地域性と、他国の地域性をバランスよく考慮することを意味します。本校では、いち早くこのような努力目標を掲げ、環境問題の視点からグローバルスタンダードになりつつある地域性を考慮した建築教育プログラムを心が



▲海外短期設計スタジオ：豪州管轄の森にて

けています。山とまちをつなぐ、地域資源の活用を提案できる設計、社会との接点を持ちながら、地域に密着した実践的トレーニングとなるように組まれているのです。

特に核となる教科は、1)自らの手や体を動かすことにより建築を学ぶ、自力建設、2)各自の問題意識に沿ったインターンシップ、3)木造建築病理学をもとに行う、エコ改修、そして、木造建築スタジオでは、4)地域によって異なる地域性の対処トレーニングとして、海外で行われる短期設計スタジオが組み込まれています。

又、この専修学習教育の他にも、山とまちをつなぐ更なるネットワーク構築の視点から、木造建築スタジオでは、森林文化に興味のある一般の方や、プロの方のための、生涯学習と短期学習教育にも力を入れています。地域の皆さん、森林に係るさまざまな地域の問題や、地域に求められる木の建築を一緒に考え・体験してみませんか。